

富山県



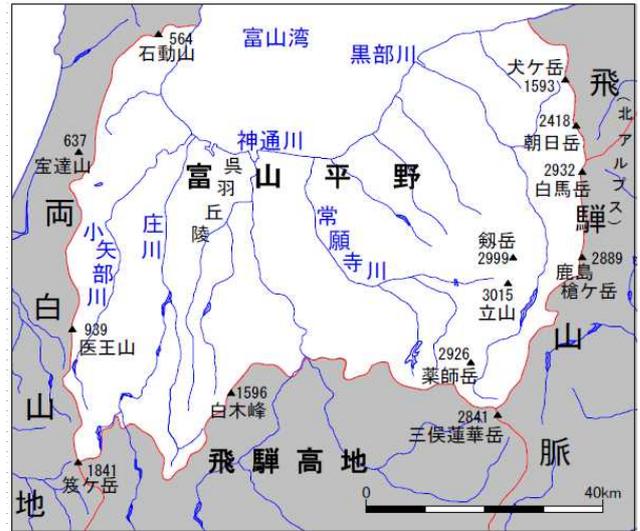
富山県の地勢

富山県は本州中部の日本海側に位置しており、東は新潟県と長野県、南は岐阜県、西は石川県に隣接している、東西約 90km、南北約 76km、総面積は 4,248km² (全国第 33 位) の県である。東に 3,000m 級の立山連峰を擁する飛騨山脈(北アルプス)、南に飛騨高地、西は両白山地に囲まれ、各山地を源にしている黒部川、常願寺川、神通川、庄川、小矢部川等の急流で大きな河川がほぼ南北に流れ、富山湾に注いでいる。これらの河川の扇状地として発達した富山平野は、県中央部の呉羽丘陵によって二分され、東側が呉東、西側が呉西と呼ばれている。

富山県の気候

富山県の気候は典型的な日本海岸気候区に分類され、比較的温暖な対馬海流の影響もあり、初夏から秋にかけての降雨や、冬の冷たい季節風が暖かい海上を吹走することによる降雪がみられるなど、降水量の多い地域である。

梅雨期、前半は比較的穏やかな天気が続くが、後半に入ると梅雨前線が北上して大雨に見舞われることが多くなる。特に、一度日本海に北上した前線がゆっくり南下する際の大雨による被害は大きい。また、台風による災害は山岳等の影響で比較的少ないが、台風が日本海を通過する際に



は、南風が強まることによる顕著なフェーン現象がみられる。

冬季、上空に強い寒気が流れ込むと降雪は強まり、たびたび大雪に見舞われる。特に、山間部は世界でも有数の豪雪地帯で、立山から黒部に通じるルートは雪に閉ざされる。

また、山間部の積雪地帯で冷やされた空気が流出することにより、冬季でも南よりの風がみられるといった特徴がある。海上では、強い季節風の影響で波の高い日が続く。特に、発達した低気圧が北海道の東海上で停滞するとき、日本海北部で発生した風浪がうねりとなって富山湾に侵入し、富山湾特有の海底地形の影響で「寄り回り波」と呼ばれる高波となって沿岸に打ち寄せる。この高波は低気圧が日本海を通り過ぎ、風や波が静まった後に来襲するため、沿岸の人々から恐れられている。また、冷たい季節風の影響で、「鱈起こし」と呼ばれる雷が発生し、上向きに放電し水平に広がる様子が見られる。落雷による被害も少なくないが、鱈起こしの到来とともに富山湾の漁港が賑わい始める。

山の雪解けが進む 4 月～5 月頃、富山湾の下層大気が冷やされることで逆転層が形成され、「春の曇気楼」がみられることがある。

地形データには USGS (アメリカ地質調査所) の GTOPO30 を利用した。